

専門科目 社会行動科学

(専門職学位課程)

科目名	社会疫学	code number : HBS 212	選択	1 単位
-----	------	--------------------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	水曜 3時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

社会疫学について理解を深めるため、その背景と重要な概念を整理する。国内外の健康の社会的決定要因に関する事例や研究成果を取り上げて検討する。問題となりうる所得や教育水準などの社会経済的要因、子どもや女性の貧困、職業上の階層や雇用形態に起因する労働者の健康、地域の結びつきなどのソーシャル・キャピタルと健康について重点的に学ぶ。さらに、社会疫学の成果を根拠とした健康への介入について理解できるようにする。健康の社会的決定要因の解決方策として注目される行動経済学と社会疫学との結びつき等について理解を深め、社会格差の縮小、集団の健康水準の向上を目的とした政策提言を議論する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

社会疫学および健康の社会的決定要因の基本的な考え方と研究知見を理解し、公衆衛生の実践に応用できる知識と技術を身につける。

【行動目標(SBO)】

1. 社会経済的要因が健康に及ぼす影響を検証する社会疫学の概念や理論を説明できる。
2. 社会疫学の研究成果を理解し、説明できる。
3. 健康の社会的決定要因の実例を挙げて問題を整理できる。
4. 社会疫学の結果を根拠にした健康を守る対策を提案できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 授業内での発言・発表・討議参加(50%)
- (2) 課題レポート・発表(50%)

注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

各授業で事前の資料等を配布する。

5. 参考書

Berkman LF, Kawachi I, Glymour MM. Social Epidemiology 2nd edition. Oxford University Press. 2014. 翻訳版:社会疫学(上・下)、大修館書店、2017.

Wilkinson R & Marmot M. Social Determinants of Health 2nd edition. Oxford University Press. 2005.

川上憲人、橋本英樹、近藤尚己 『社会と健康:健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ』東京大学出版会、2015年
イチロー・カワチ 『命の格差は止められるか: ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業』小学館、2013年

6. 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間

- ・指定する文献・副読本を事前に読んで理解すること
- ・事例に関する議論の際には事例に関わる諸問題について事前に調べておくこと
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・課題やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

社会疫学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/11(水)	3	福田 吉治 教授 井上まり子 准教授	オリエンテーション 社会疫学を学ぶ人のために ―背景と概念―
2	11/18(水)	3	福田 吉治 教授	社会経済的地位 (Socioeconomic Status) と健康
3	11/25(水)	3	福田 吉治 教授 村山 洋史 講師(非)	地域の社会経済的環境と健康
4	12/2(水)	3	井上まり子 准教授	働く人と健康格差 ―職業階層・雇用形態と健康―
5	12/4(金)	3	井上まり子 准教授	ソーシャル・キャピタルと健康
6	12/9(水)	3	福田 吉治 教授	行動経済学の社会疫学への応用
7	12/16(水)	3	橋本 英樹 講師(非)	健康格差の縮小に向けて:健康格差の理論
8	12/23(水)	3	福田 吉治 教授 井上まり子 准教授	まとめ・総括